

令和7年度 三田地域看護推進会 シンポジウム

認知症看護認定看護師の活動について

～地域のリソースを活用しよう～



令和7年9月20日
兵庫中央病院
認知症看護特定認定看護師
服部 利奈

1. 認知症看護特定認定看護師の活動について

認知症看護認定看護師とは

認知症の発症から終末期まで、認知症の状態把握を含む高齢者の心身の状態を統合的にアセスメントし、各期に応じたケアの実践、ケア体制づくり、介護家族のサポートを行う



特定行為研修修了者

分野①精神及び神経症状に係る薬剤投与関連
→抗精神病薬、抗不安薬、抗てんかん薬の臨時の投与
②栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
→高カロリー輸液の投与量の調整、脱水に対する補液の調整

認知症看護認定看護師が特定行為研修を学んでできること

- ・ 認知症の病態や病期を学び、患者に寄り添うことの重要性を伝える
- ・ 患者の思いを汲み取り、困りごとをスタッフと一緒に考える
- ・ 対応が困難な場合は、薬物を使用するが、作用・副作用、日常生活への影響をアセスメントし、薬物の効果を評価し、変化があれば、早期に対応が必要である

第一選択は非薬物療法である。非薬物療法を行っても対応が困難であれば、薬物療法を選択する。薬剤の効果・効能、副作用を考慮し適切な薬剤を選択し、臨時投与ができるように関わっていく

兵庫中央病院

1

2. 実際の活動内容

院内での活動

- ・ 週1回の認知症ラウンドを行い、多職種との介入患者のアセスメントを行いケア方法についての検討。
- ・ 抗精神病薬の内容についての相談→休息と覚醒のバランスを整える、どうしても薬剤が必要な場合はその患者に適しているものを認知症専門医と相談し、主治医に提案
- ・ 院内での認知症看護についての勉強会 例：不眠について、物盗られ妄想の対応について
- ・ 令和7年度新人研修でVRによる認知症患者体験による学習会の開催

認知症疾患医療センターとの協働

- ・ 認知症疾患医療センターとの協働(本年度より)→近隣の地域包括支援センターや訪問看護などへの講義開催、脳活教室の運営・患者の相談、家族教室への講話、家族交流会でのファシリテーター

院外での活動

- ・ 認知症ケア研修のファシリテーター
- ・ 令和6年度近畿ブロックでの学会発表『VRを用いた認知症患者体験の学習効果』

兵庫中央病院

2

3. 認知症とせん妄の違い

	せん妄	アルツハイマー型認知症
発症	急激で発症時期が 明確	緩徐で年単位の進行
症状の変化	1日の中で症状が変動する	ほぼ一定 (BPSDを除く)
会話	つじつまが合わない 話のまとまりがない	同じ会話を繰り返す 昔の話が多い
睡眠パターン	不穏、昼夜逆転	パターンは一定

・ 入院などによって急に認知症になったと思われることも多いがせん妄であることも。

せん妄は一過性であるため、一般的には治ることを家族に説明する

・ 認知症がある患者はせん妄になりやすいので注意が必要

過度な活動制限や環境の変化に敏感なため、高齢者はせん妄を起こしやすい。
せん妄の対応をすることで、身体拘束の最小化につながるため、副看護師長会で勉強会を実施。

兵庫中央病院

3

4. 認知症の人と接するときの原則について

① 認知症の人の意思を尊重する

- ・ 「1人の人として受け入れて尊重する」姿勢を持つ
- ・ 常に礼儀正しく対応する
- ・ 会話が通じなくても、きちんと説明する
- ・ 何かをするときは認知症の人の希望を聞いて、できるだけ希望に沿った対応ができるようにする

もの盗られ妄想の際の声かけ



「私は盗ってないです」

「盗られたんですね」



「そうですね。一緒に探しましょう」

「ちょっと疲れましたね。一旦休憩しましょう」

兵庫中央病院

4

6. 高齢者の心をひらく魔法の合言葉 さしすせそ



・ さ…「さすがですね」

相手の行動や発言に対して、感心した様子で伝える。相手の誇りを引き出し、心を 開くきっかけとなる。

・ し…「知らなかったです」

素直に「知らなかった」「教えてくれてありがとう」と伝えることは、相手の人生を尊重する姿勢にもつながる

・ す…「すごいですね/素敵です」

行動そのものだけでなく、その背景にある気持ちを称えることが相手にとって大きな喜びになる

・ せ…「センスがありますね」

相手の持ち物やセンス、行動を具体的に褒める

・ そ…「そうですね」

理不尽に感じる話や繰り返される愚痴も、高齢者にとっては“今まさに”感じている大切な感情である。そのような時も「でも」「違いますよ」と否定するのではなく、まずは「そうですね」と寄り添うことが大切。

兵庫中央病院 2025/7/10

5

7. 認知症の当事者 丹野智文さんの言葉

「できることを奪わないでください。そして、時間はかかるかもしれませんが、待ってあげてください。1回できなくても、次できるかもしれないと信じてあげてください。」

そしてできた時には、当事者自信を持ちます。自信を持って行動することはとても大切で、欲張って全ての事をやろうとしたり、できないと決めつけてやってしまうと、自信を失い、本当に全てができなくなってしまいます。

失敗しながらも自信を持って行動する。周りの人は、失敗しても怒らない、行動を奪わないことが、気持ちを安定させ、進行を遅らせるのだと思います。

失敗しても怒られない環境が、認知症当事者には必要なのです。もちろん、危険なことになったら、注意は必要ですが、話し方や言い方によって、当事者の受け止め方が変わります。」

兵庫中央病院

6